2019 年 1 月 28 日
ちょぼちょぼ市民連合：田中一郎

2019 年参議院選挙 大敗北の兆し

（このままでは危ない＝早く闘える体制づくりを市民のリーダーシップで）

１．小沢一郎・自由党が国民民主党に合流へ
参議院野党第一会派狙い、野合・数合わせ？　森ゆう子・山本太郎両議員のコメントは別添
進まない野党共闘・「オリーブの木」構想にしびれを切らし思わずつかんだ「毒饅頭」
自由党支持率１％未満＋国民民主党支持率１～２％ ⇒ 負け組連合 ▲効果？（１＋１＝▲）
肝心かなめの政策や政権構想、従って有権者・国民のことはどうなった？
有権者そっぽの可能性大（2012 年衆院選時の「未来の党」嘉田・小沢連合のごとし：別添）

２．山梨県知事選挙＝参議院選挙１人区の前哨戦 敗北
自民（野党） ＶＳ 立民・国民（但し縁の下） ＶＳ 元民主 ＶＳ 共産
2005 年郵政選挙のなごり、自民・長崎候補はかつて小泉純一郎・自民が放った元刺客
現職は「県民党」を名乗り立民・国民の表立っての応援を拒否⇒これの意味するところ重大

３．泥沼化し始めた野党の主導権争い＝立民 VS 国民を軸に社民・自由・共産巻き込む
愚かな総大将＝野党第一党・立憲民主党（枝野・福山執行部）これでは勝てない・変わらない
国民民主党は放っておいてもやがて消えてなくなる ＝ 今ごろケンカするな！！
必要なのは共倒れ防止のための「棲み分け」（ギブ＆テイク＝お互いの利益利害尊重）

＊選挙（参議院＋統一地方）に勝つための必策が全くと言っていいほど手付かず
（１） 骨太で適切な新政権構想の打ち出しと有権者・国民へのＰＲ・周知徹底（選挙争点化）
（２） 多数派工作（野党第１党の責任＝WINWIN の関係・友好的雰囲気づくり・敵の敵は味方他）
（３） 候補者の早期決定と、その人を軸にしたアベ政権・自公政治転換のドブ板政治運動
（４） 「市民と野党の共闘」が進展せず（対話も協力関係も薄い）

４．選挙直前に迷走する野党各党：市民リーダーの動き見えない
（１）小沢一郎・自由＋玉木・国民＝野合負け組連合＝「市民と野党の共闘」から脱走
（２）茨城・藤田幸久議員が国民民主党から立憲民主党へ移籍、国民民主党が離脱認めず
（３）小沢一郎「藤田議員を巡る立憲民主党の動きは数合わせ」と批判＝よく言うとるワ
（４）立民も社民と統一会派で野党第一党争奪戦へ：社民は「市民と野党の共闘」リードせず

（田中一郎コメント）
さながら 1920 年代のナチス政権成立前のワイマール・ドイツ議会での政争のごとし（社民や中央党他）、さながら 1920 年代の大正デモクラシー末期の大日本帝国議会での政争のごとし（政友会・民政党・社会大衆党他）
歴史は繰り返す、一度目は悲劇として、二度目は茶番として
このままでは、まもなく共産党が「市民と野党の共闘」から離反の可能性

５．（付録１）脱原発と東海第二再稼働（原発政策はすべての試金石）
国民民主党の「原発ゼロ」は 2030 年代＝これを世の中では「問題先送り」という
立憲民主党の「原発ゼロ」には原子力規制委員会・規制庁の否定他の各論がない（怪しい）
那珂市長選で自民候補が無投票で当選、東海第二の再稼働判断を明言せず
東海第二の周辺市町村首長で「東海第二再稼働反対」を明言するものはいない　広島他も
参院選茨城選挙区では立民と国民が別々に候補者擁立か？ ⇒ 共倒れ、自民 2 議席独占？
（立憲民主党が東海第二再稼働の是非を争点にして積極攻勢の様子はない＝負け必至）
東海第二の再稼働の危険性は政治的に非常に高くなった（勝てるイクサで負ける愚）

６．（付録２）改憲勢力もまた内部事情はバラバラ（別添記事）
国民民主党や一部立憲民主党などよりも公明党・創価学会の方が改憲阻止には効果あり
少なくとも山尾志桜里らのような「護憲的改憲」などよりは皮肉にもブレーキ効果あり
「維新」と「希望」は似た者同士＝いずれ合流する「市場原理主義アホダラ似非右翼連合」
CF：日本維新と橋下徹は「対立関係」
７．（付録３）経済政策の重要性（選挙敗北の最大原因）
松尾匡立命館大学教授が提唱「薔薇マーク・キャンペーン」
参院選マニフェスト大黒柱の一つに「反緊縮型経済政策の積極展開」を入れる
社会保障・福祉、労働、教育・保育、医療・介護、地域振興、農林水産業復興、福島原発事故・東日本大震災復興、生活関連インフラ、文化、安全・衛生、環境など
消費税率引上げ中止（から引下げ・廃止へ）と公正な税制実現（ﾀｯｸｽﾍｲﾌﾞﾝ、資産課税他）
（但し、松尾氏の各論には異議あり＝日銀政策、税制、財政支出内容など）

８．まとめ

「とにかく何でもいいから安倍政権を倒すべきである」はダメ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2009 年民主党政権の失敗の繰り返し＝つまり日本の政治は変わらない＝原発・核燃も戦争法制（関連法含む）も経済政策・市場原理主義アホダラ教も利権・私物化も不変のまま
問題はアベ自民一強ではなく野党多弱　Σ多弱野党＝多弱野党＝万年野党
失敗した改革政権の後には改革政権前よりも一段とグロテスクな邪悪政治が出てくる
（事例は枚挙に暇なし：仏革命、露革命、ワイマール独、オバマ政権、2009 民主党政権）
急がば回れ＝政権を変えるだけではダメで、政治を転換しなければならない
従来型の市民運動・社会運動には限界＝ワンイシュー、政治的カマトト主義、選挙時だけ他

ナロードニキ：一握りの人達で主導権争いをしてもダメ、仲良しクラブ・内輪運動でもダメ
アベ政治のひどさとその改革の絶対的必要性は圧倒的多数の有権者・国民に届いていない
改革する側は「知恵」と「覚悟」が必要　合従連衡論よりも政権構想の中身とそのＰＲ
日本は危機の時代＝アベ自民とその補完勢力に対する「最終戦争」展開中
私からの提案 ⇒ 立憲民主党・共産党を励ます会、「市民と野党の共闘」全国大会

以　上